

生活介護サービス株式会社
 介護付有料老人ホーム「ユーカーリ小金原」(千葉県松戸市)

診療所との緊密な連携により 24時間365日安心の医療・介護を実現

高齢者の新たな安心の拠点として、2011年4月に千葉県松戸市でオープンした介護付有料老人ホーム「ユーカーリ小金原」。地域住民からの信頼が厚い医療法人社団実幸会からは診療所に併設され、24時間365日の安心の医療体制を備えた同施設は、入居者の「生活」を守りながら、医療・介護の切れ目のないケアを提供している。

広々とした解放感がありながら、家庭のようなくつろいだ雰囲気も兼ね備えたリビング

生活のうえに成り立つ医療
 介護との連携・協力が不可欠

2011年4月、千葉県松戸市に介護付有料老人ホーム「ユーカーリ小金原」(運営・生活介護サービス株式会社)が誕生した。地域で長く在宅医療に尽力する医療法人社団実幸会からはら診療所と、グループ法人である同社が密に連携をとりながら立ち上げた同施設は、「介護のなかに生活の視点を入れること」「これまでと変わらない生活を送ること」を理念に、開設2カ月ですでに入居率7割以上と順調な滑り出しを見せる。

診療所の移転に合わせて敷地内に併設された同施設。入居者のほとんどは、入居理由の1つに「医療体制の安心感」を挙げるという。施設と診療所は2階の渡り廊下でつながれ、スタッフが行き来しやすいことはもちろん、入居者も気軽に診療所に向くことができる。診療所には医師や看護師が常駐しているのも、まさに24時間安心の医療体制が整った理想の住まいだといえる。

苛原実院長は「在宅医療に17年かかわるなかで実感するのは『医療は



A 可原美院長 B 三富一夫代表取締役社長 C 居城弘子施設長
 D 居室と並ぶスタッフルーム E 入居者の生活を凝縮したような居室
 F ソファの並びリビング。施設内のいたるところに飾られた美しいあじさいが季節感を醸し出す G 入口付近には、洗面台と扉で仕切られたトイレを設置。トイレ内の照明はセンサーでオン・オフが管理できる
 H 2・3階に設置された個浴槽 I いらはら診療所(右)と駐車場を挟んだ同じ敷地内に併設されている J 浴室はコの字型の居室の端にあり、どちらの廊下からも出入りできる



『生活のうえにこそ成り立つ』という事です。生活を支える介護との連携がなければ、適切な医療の提供はできません」と断言し、さらに「新興住宅地という地域性から人間関係が希薄になり、人知れず生活が破たんしてしまう高齢者が非常に多い。退院しても行き先がない場合も多く、今後ますます深刻化する地域の課題でもあります」と力説する。実際、同施設は診療所を退院した患者の受け皿としての役割も担っており、医療機関が入院日数を制限せざるを得ないなか、新たな居場所として機能し始めているという。

「生活の場」という雰囲気と安心の医療体制が共存

同施設では「入居者の生活の場」という視点からも随所にこだわりを散りばめた。建物内の雰囲気は左右する床や壁などの色は、光の入り具合を考慮して各階ごとに色の明度を調節しつつ、施設らしさを感じさせないシックな色調で統一するほか、間接照明を活用して空間に奥行きと高級感を与えている。また、居室の配置はキッチンとダイニングを囲むコの字型に

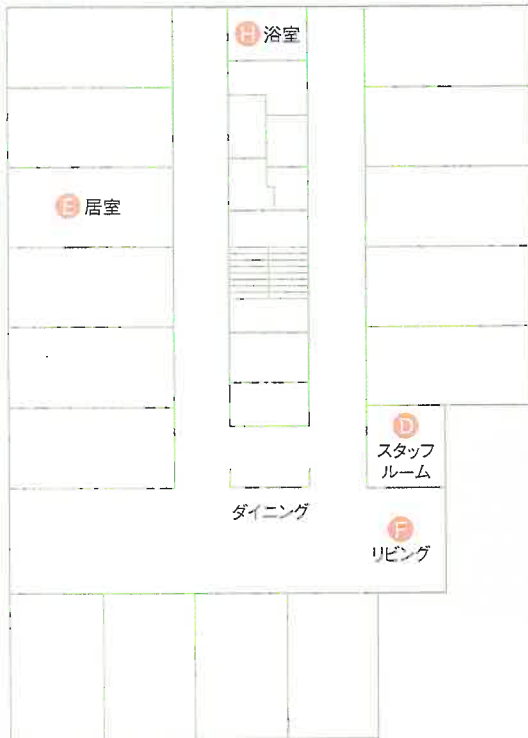
生活介護サービス株式会社
介護付有料老人ホーム「ユーカーリ小金原」



千葉県松戸市小金原4-3-4
☎047-312-1165

- 類型：介護付有料老人ホーム
- 居室：40室(18.03～18.45㎡)
- 建物構造：鉄骨造3階建
- 敷地面積：2,028.75㎡
- 延床面積：1,440.72㎡
- 入居一時金：30万円
- 月額費用：
24万5,000～26万5,000円
(介護保険1割負担別途)

2F



④ 施設と診療所の2階をつなぐ渡り廊下。同施設の食事は診療所2階の厨房で一括調理されており、職員は渡り廊下を通過して食事を運ぶ。①階には特殊浴室を完備。②入居者が集まる機能訓練室。この日は棒を使った体操を実施。



なっている。同社の三富一夫代表取締役社長は「限られた建築面積で多くの居室を確保するため、建築士と検討を重ねました。コの字型に折れた廊下は、ご入居者のプライバシーを保ちながら、職員が全体を見通しやすいメリットもあります」と話す。シンプルなデザインの居室も、入居者がそれまでの生活を無理なく継続するための配慮だ。

同施設の平均要介護度は現在4.2。医療依存度の高い入居者も多いが、「近くに医師や看護師がいる安心感は大いだと思います。緊急時はもちろんですが、普段感じることとした疑問をすぐに解決でき、職員も安心して働けています」と居城弘子施設長。すでに3人の入居者を看取った実績もあり、入居者の家族からの評価も高い。

「安心して生活できる地域づくりのためには、医療と介護の連携が不可欠です。今後も実践と、講演などの情報発信に尽力しながら地域に貢献していきたい」と力強く語る菅原院長。診療所を併設した同施設が、医療と介護をつなぐ1つのモデルになるかもしれない。

(撮影：関口宏紀 文：編集部)